

基本方針

小松天満宮の建造物や自然環境と調和する河川及び周辺景観の形成

歴史性の演出：歴史文化施設との調和
自然環境との調和：社叢林との調和



拝殿北側のスタジイ大径木



明治24年に描かれた小松天満宮絵図



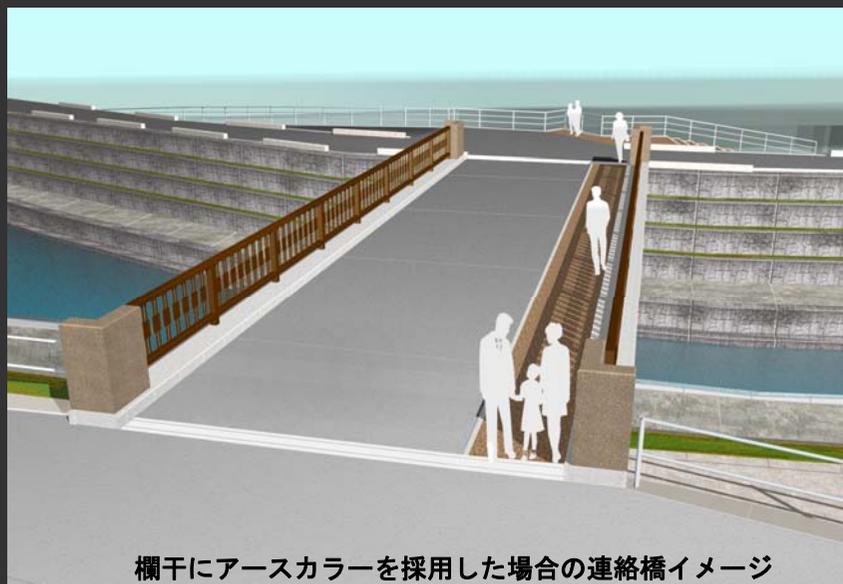
重要文化財に指定されている神門

連絡橋イメージ

- ・河川施設として十分安全性を確保できること
- ・天満宮の景観になじむものであること
- ・河川整備に伴う補償で整備が可能であること
- ・将来的な管理が容易であること



シンプルな欄干デザインとした場合の連絡橋イメージ



欄干にアースカラーを採用した場合の連絡橋イメージ



朱色の欄干デザインとした場合の連絡橋イメージ

本殿参道イメージ

- 本殿周辺部の施設は、現況のまま保全される
- 堤防周辺部では、樹木密度の調整を行い通風が良くなる
- 本殿西側の広場の消防貯水槽部に坂路が整備される



本殿南側参道 現況



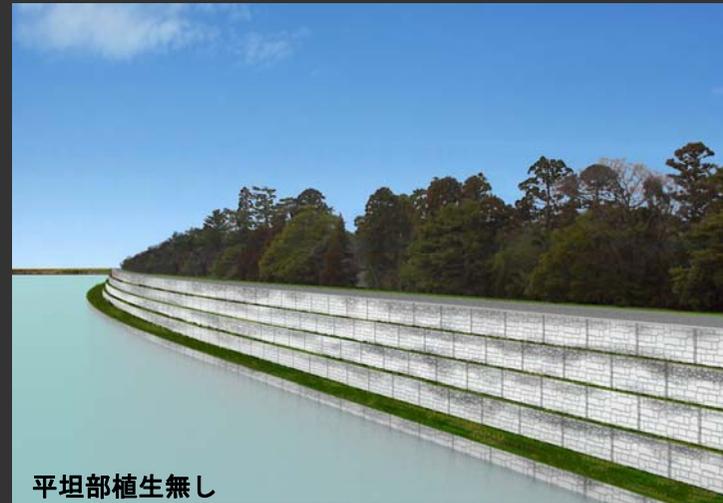
本殿南側参道 整備後イメージ

小松大橋からの眺望イメージ

- 護岸は、安全性を考慮し、箱形擁壁ブロックを使用
- 平坦部があり、時間経過と共に植生が復元していく



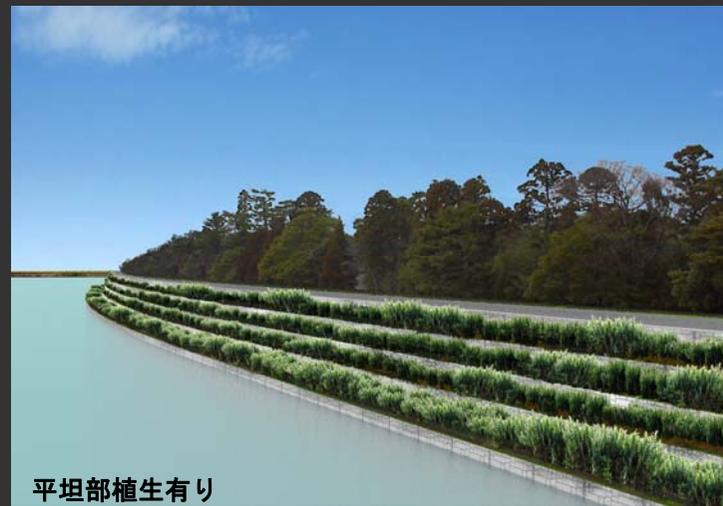
現況



平坦部植生無し



溶岩ボード使用



平坦部植生有り